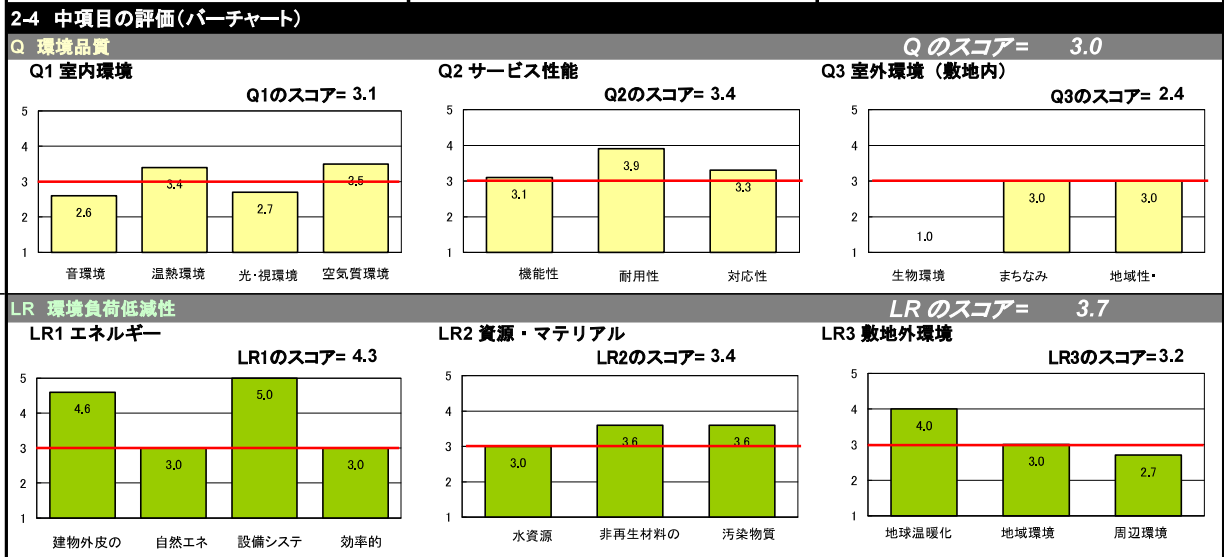
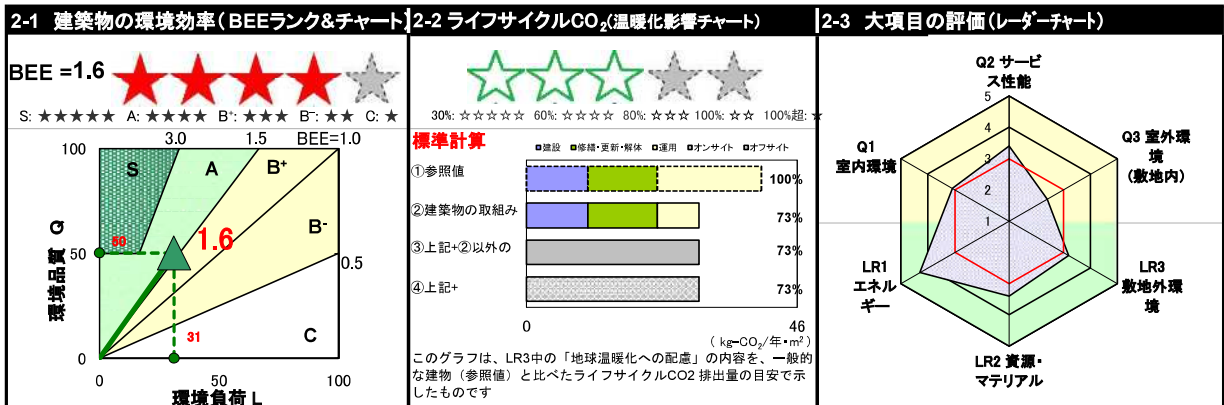


1. 建物概要					
建物名称	静岡高等学校校舎棟新築他工事			BEE	★★★

2. 重点項目への取組み度					
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価		
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進 (Global Warming)	3.9	/5	ふつつ		
“災害に強いしずおか”の形成 (Disaster)	3.8	/5	ふつつ		
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進 (Universal Design)	3.3	/5	ふつつ		
“緑化及び自然景観”の保全・回復 (Nature)	3.5	/5	ふつつ		
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	ふつつ 3 点以上	がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目	
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。			
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進(Global Warming)		得点	3.9
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ①空調設備を設ける室にLow_e複層ガラスを採用。 断熱材に現場発泡硬質ウレタンフォーム 屋根t80、外壁t50を採用。	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④	外皮性能 昼光利用設備 昼光制御 躯体材料の耐用年数 外壁仕上げ材の補修必要間隔 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 空調換気ダクトの更新必要間隔 空調・給排水配管の更新必要間隔 主要設備機器の更新必要間隔
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑥極力既存の緑地を残す事とする。	Q-3 1 3 3.2	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上
	■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑦空調設備を設ける室にLow_e複層ガラスを採用。 断熱材に現場発泡硬質ウレタンフォーム 屋根t80、外壁t50を採用。 ⑨空調設備、換気設備、照明設備の省エネ化	LR-1 1 2 3 4 4.1 4.2	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 モニタリング 運用管理体制
	■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑫リサイクル材 床:玄間タイル、ビニル床シートの採用。 複合フローリング基材に県産材を採用。 躯体と仕上の容易な分別 躯体:鉄骨+ロックウール吹付 仕上:LGs地下ボード張 ⑬居室の仕上は全て、F☆☆☆☆又は、規制対象外の建材を採用。	LR-2 1 1.1 1.2 1.2.1 1.2.2 2 2.1 2.2 2.3 2.4 2.5 2.6 3 3.1 3.2 3.2.1 3.2.2 3.2.3	⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒
	■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑮極力既存の緑地を残す事とする。	LR-3 1 2 2.2	⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善
“災害に強いしずおか”の形成(Disaster)		得点	3.8
	■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑯用途係数L1.25 ⑰光ケーブル	Q-2 2 2.1 2.1.1 2.1.2 2.4 2.4.1 2.4.2 2.4.3 2.4.4 2.4.5	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)		得点	3.3
	■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑲建築物移動等円滑化基準を満たす。	Q-2 1 1.1 1.1.3 3 3.1 3.1.1 3.1.2	⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 階高のゆとり ⑳ 空間の形状・自由さ
	■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮)	Q-3 3 3.1	㉑ 地域性への配慮、快適性の向上
“緑化及び自然景観”の保全・回復(Nature)		得点	3.5
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑥極力既存の緑地を残す事とする。	Q-3 1 2 3 3.2	⑤ 生物環境の保全と創出 ㉒ まちなみ景観への配慮 ⑥ 敷地内温熱環境の向上
	■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善) ⑫複合フローリング基材に県産材を採用。 ⑮極力既存の緑地を残す事とする。	LR-2 2 2.5 LR-3 2 2.2	⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑮ 温熱環境悪化の改善

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	静岡東高等学校校舎棟新築他工事	階数		
建設地	静岡市葵区川合3丁目757-1、896-1	構造		
用途地域	第2種中高層住居専用地域(一部第7地域)	平均居住人員		
地域区分	7地域	年間使用時間		
建物用途	学校	評価の段階		
竣工年	2027年11月 予定	評価の実施日		
敷地面積	36,984 m ²	作成者		
建築面積	2,322 m ²	確認日		
延床面積	7,507 m ²	確認者		



3 設計上の配慮事項		
総合		
ZEBreadyを目標とし、外皮及び照明、空調、換気設備を計画している。 これはCASBEE静岡(2021年SDGs対応版)による評価結果です。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
ZEBreadyを目標とし外皮計画をしている。 生徒が生活する時間が最も長い普通教室を、自然採光、自然換気等室内環境の最も良い南側に配置した。	職員室、事務室をO Aフロアとする。	景観に配慮したデザイン、色彩計画とする。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
ZEBreadyを目標とし、外皮及び照明、空調、換気設備を計画している。	仕上材のリサイクル材採用に努めた。 床フローリング(基材)に県産材(杉)を使用する。	採光、換気、通風等、敷地外への影響の少ないよう配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される